

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19105006	研究期間	平成19年度～平成21年度
研究課題名	多孔質エキゾチック超伝導体の開発と物性評価	研究代表者 (所属・職)	山中 昭司（広島大学・大学院工学研究科・教授）

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、(1) 超高压高温合成による新規多孔質超伝導体の開発、(2) インターカレーションによる層状窒化物超伝導体の開発、(3) 窒化物薄膜超伝導体の開発から構成されている。</p> <p>これらのテーマを物質創製グループと物性評価グループがうまく連携して、超伝導体の開発の中で数種類の超伝導体を見出していることは高く評価でき、目標に相当する十分な成果を上げている。</p> <p>さらに難しい不安定な化合物に進む努力が見られ、今後期待が持てる。</p> <p>また、成果の発表等も、<i>J. Mater. Chem.</i> 誌の表紙に採択されるなど十分な成果発表を行っている。</p>		

【平成22年度 検証結果】

研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。
-----------------------